

◆授業設計のポイント◆

- ① 美術科の本質に迫る深い学びにおける生徒の姿の具現化
- ② 思考を広め深める対話環境の設定
- ③ 学習プロセスを見通し・振り返る活動の充実

美術科学習指導案

学 級 3年6組(男子21名・女子18名・計39名)

場 所 第1美術室(3年校舎3階)

授業者 教 諭 馬 場 久 美 子

1 題 材 デザイン

題材名 「あったらいいな!こんなお茶」

2 題材設定の理由

私たちは日常的に様々なペットボトル飲料を手にしており、中でも茶系飲料は最も身近な存在となっている。店頭に並ぶ数多くの飲料から自分の購買意欲に合う商品を見つけるために、大きな役割を占めているのが各ペットボトルのもつラベルデザインである。学習指導要領にも「伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かしてわかりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること」と目標を明記されており、商品名を表す文字、そして内容を端的に視覚伝達するための色彩から成るペットボトルのデザインは、形や色などの共通事項の要素で構成されており、その目的や機能と美しさの調和などについて考え、豊かに発想し、創造的な表現の構成を練ることのできる資質・能力を身につける題材としてふさわしいと考え本題材を設定した。

本学級の生徒は基本的に明朗で、意欲的に表現や鑑賞の活動に取り組む生徒が多い。特に実生活に関わりのある題材については多くの生徒が高い意欲をもっている。鑑賞では作品に対しての自分の意見や思いをしっかりともち、それを表現することは概ねできており、それを言語活動を通じて他者にわかりやすく伝えたり、説明する学習活動にも積極的に参加できている。しかし、作品を多面的・多角的に根拠をもって鑑賞し、そこで得た価値を次の表現につなげ、より良いものへ深めていこうとする意識はまだ低く、このプロセスの改善が課題である。

本題材では「もしもこんなお茶があったらいいな」という設定で中高生に好まれるような茶系飲料のペットボトルラベルを個人制作する。指導にあたっては導入部分で実際に日常で手にすることのできる市販のペットボトルラベルを複数鑑賞する。その際、ラベルから受ける漠然とした印象だけではなく、自分はどんなラベルを美しいと感じ、購入したいと思うのか、そしてその美しさを構成する要素は何なのかという価値意識を、形や色等の共通事項の観点からしっかりと分析させ、それを基に生徒の中での表現したいラベルの目標イメージを明確にもたせる。また対象年齢ごとにどのようなデザインのラベルが好まれるかという商品を手にする他者からの視点も考えさせ、実際の生活との関わり意識させる。展開部分では配色した段階のラベルを、個々の目標イメージに沿ったものであるかレーダーチャートを活用して再び鑑賞する。その際個々の活動だけでなくグループ会議を行い、他者との対話を通して客観的な評価・アドバイスを受け、それを基に改善点を明確にしていく。その後、再度ラベルの配色を練り直し、納得のいく追求をし自分なりに作品の質を高めていく。このような学習プロセスを経ることにより、生徒の深い学びにつなげていきたいと考える。

3 単元の目標

- (1) ペットボトルのラベルに関心を持ち、目的意識をもって主体的に制作活動や鑑賞活動を行うことができる。
- (2) ペットボトルのラベルを構成する要素を基に、形や色彩などの効果を生かして表現の構想を練ることができる。
- (3) 自分の目標イメージに合う表現を工夫しながら、創造的に表現することができる。
- (4) 実際に市販されているペットボトルのラベルや他の生徒の作品を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫、身近な商品としての美しさなどを味わうことができる。

4 単元の指導計画（全8時間）

1 題材の把握と鑑賞Ⅰ (2時間)	「市販のペットボトルのラベルを分析しよう」 ・ 題材の説明をする。 ・ ラベルを共通事項に沿って分析し、まとめる。
	「『お茶』を構成する要素を整理しよう」 ・ 『お茶』から受けるイメージをマッピングする。 ・ 内容・商品名を決定する。
2 表現の発想と構想 (1時間)	「あったらいいなと思う『お茶』のペットボトルを考えよう。」 ・ どんな商品を制作したいのか共通事項に沿って考え、目標イメージを持つ。
	「ラベルのデザインを考えよう」 ・ ペットボトルのラベルに必要な文字やラベルの配色を2案考える。
3 制作Ⅰ (1時間)	「ラベルを制作しよう①」 ・ トーナルカラーを使って配色したものをペットボトルに取り付ける(2案) ・ レーダーチャートを使って配色を自己分析する。
4 鑑賞Ⅱ (1時間：本時)	「配色を互いに鑑賞し、さらに深めよう」 ・ 前時の配色についてプレゼンボードを用いたグループ会議を行い、ラベルをより良くするための改善点をまとめる。 ・ 配色を練り直す。
5 制作Ⅱ (2時間)	「ラベルを制作しよう②」 ・ 前時の結果を元に、文字を追加しラベルを制作する。
6 鑑賞Ⅲ (1時間)	「ペットボトルを鑑賞しよう」 ・ 実際にペットボトル容器に取り付けて、鑑賞する。

5 題材における評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表現 美術の創造活動の喜びを味わい、自分のペットボトルラベルのデザインに関心をもち、意欲的に表現しようとしている。 鑑賞 ペットボトルラベルがもつ造形の美しさや作者の意図、表現の工夫などに関心をもち主体的に感じ取ろうとしている。	感性や想像力を働かせて、文字の形や自分自身の個性、特徴を基に美しさなどを考え表現の構想を練っている。	感性や造形感覚を働かせて、色や形の表し方を身に付け、意図に応じて材料の使い方を考え、創意工夫して表現している。	感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、作品などに対する思いや考えを説明しあうなどして、対象の見方や感じ方を広げている。

6 本時の実際（6／8）

(1) 題材 「配色を互いに鑑賞し、さらに深めよう」

(2) 目標（評価規準）

ア ペットボトルのラベルに関心をもち、共通事項を通して主体的に表現・鑑賞を行うことができる。

イ 他者との関わりを通して、創造的に再構成することができる。

ウ 他の生徒の配色を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫、ペットボトルのラベルとしての美しさなどを自分の価値意識をもって味わうことができる。

(3) 授業設計の工夫

ア 美術科の本質に迫る深い学びにおける生徒の姿の具現化 **研究の視点1**

本時における深い理解に至った状態を『共通事項の「色」の視点から思考を深め、用途や機能、他者の意見、自分の思い等を総合した上でより自分の目標イメージに近いペットボトルラベルの配色ができる状態である』と設定した。そのために追究過程として、展開部分でラベルの配色についての改善点を明確にすること、それを基にさらに作品を深化させるための試行錯誤をやすくするために、トータルカラーを使用し配色の練り直しを容易にできるようにした。また配色を2案用意することにより、より多面的に考えられるようにした。

イ 思考を広め深める対話環境の設定 **研究の視点2**

自分の制作したラベルが相手にとってどう受け止められるのか、グループ会議を通して捉えさせる。その際プレゼンボードを使用し「色」の視点から自他の作品を多角的に鑑賞する場面を設定することにより、思考を深め、表現の深まりにつなげていく。

ウ 学習プロセスを見通し・振り返る活動の充実 **研究の視点3**

導入部分では、実生活において目にすることのある市販品を共通事項の視点から鑑賞し、それを基に自分の表現したい茶系飲料の目的を明確にする場面を設定する。表現したい内容は途中変化していくことも予想されるので、その移り変わりをアイデアマップを通して継続的に視覚化できるようにする。また展開部分では自分の制作意図が他者に伝わっているかどうかを捉えやすくするためにレーダーチャートで表す。4方向のレーダーチャートで表すことにより、作品を多面的・多角的な見方や考え方をするための手段とし、終末部分の鑑賞での指標とする。

(4) 展開

過程	主な学習活動とその目的	時間/形態	指導上の留意点 ◎は評価
導入	1 本時の学習課題を設定する。 自分のラベルについて「色」の視点から分析し、より良いラベルを制作しよう。 自分の2つの配色はどちらがより相手に自分の意図が伝わるだろうか？またより良くするためにはどうすればよいただろうか？そのための改善点を他の人からの意見を参考に明確にしたい。	5分 一斉	<ul style="list-style-type: none"> アイデアマップを使って前時までの学習過程を振り返り、本時の学習活動にどのような意味があるのかを捉えやすくする。 アイデアマップを使って自分の目指すラベルを再確認できるようにする。
	2 前時に作ったレーダーチャートシート①を参考に自分の作品を振り返る。 研究の視点3	5分 個人	<ul style="list-style-type: none"> レーダーチャートの観点に目標イメージを書き入れることにより、個々の目指すラベル像を把握しやすくする。
展	「気付き」 P1：予想していたよりも色が目立たないのはなぜだろう？ P2：もっとお茶の美味しさが伝わるような「色」の組み合わせはないかな？		
	3 プレゼンボードを使ってグループ会議を行う。互いの配色について評価し合い、レーダーチャートシート②に書き込む。 研究の視点2	20分 グループ	<ul style="list-style-type: none"> レーダーチャートの数値が高かったものや低かったものについては、その理由や改善策をレーダーチャートシートに書き加えるようにし、練り直しの手助けができるようにする。 <p>③論理的思考力（レベル2） 自らの考えとその根拠や理由付けを説明することができる。</p> <p>④協同する力（レベル2） お互いの考えの共通点や相違点を見出しつつ、話し合うことができる。</p>
開	4 レーダーチャートシート①②を重ねて、自分と他の人との評価の差を見取る。 研究の視点2・3	5分 グループ	
	「納得」 P1：自分が思っているよりもお茶の味や目的が伝わっていた。 P2：主調色はもっと彩度が低い方がお茶の渋みが伝わるのがわかった。 P3：同じ種類のお茶でも人によって配色が全く違うラベルになることに気付いた。		
開	5 配色の変更点を確認し、再度練る。 研究の視点1	10分 個人	<ul style="list-style-type: none"> P3のような生徒にはレーダーチャートの数値をさらに高め、バランスの良い陣形にするための練り直しができるような助言を行う。
	「意志」 P1：アドバイスを基に主張色の割合を大きくしてみよう。 P2：他の人のラベルを参考にして、色数をもう1色増やしてみよう。 P3：自己評価と他の人の評価が違ったけれど、自分の意図を大切にして配色の変更はしないでおこう。		
	研究の視点1 深い理解に至った生徒の姿 『共通事項の「色」の視点から思考を深め、用途や機能、他者の意見、自分の思い等を総合した上でより自分の目標イメージに近いペットボトルラベルの配色ができる』		
終末	6 本時の感想、気付いた点や新しい発見などを記入する。 研究の視点3 7 次時の説明を聞く。	5分 一斉	<ul style="list-style-type: none"> アイデアマップを使って自分の配色の深まりを自覚できるようにする。